

令和5年7月5日

首都圏広域地方計画推進室

国土交通省関東地方整備局・関東運輸局

新たな首都圏広域地方計画『基本的な考え方』を公表しました。

～施策の多機能化と連携によって首都圏をリニューアル～

新たな首都圏広域地方計画について「基本的な考え方」をとりまとめましたので、内容を公表します。

「首都圏広域地方計画」は、国土形成計画法に基づき首都圏が果たすべき役割と目指すべき方向を定める指針として、平成28年3月に策定し、現在まで広域的な連携・協力した取組を進めてきたところです。

その後も、人口減少・高齢化や自然災害の激甚化・頻発化が進むとともに、国際情勢の緊迫に伴う我が国の社会情勢やコロナ渦を経た暮らし方・働き方の変化を踏まえ、新たな首都圏広域地方計画の策定に向けた協議等を行い、『基本的な考え方』をとりまとめましたので公表します。

今後、「新たな首都圏広域地方計画」の策定に向け、『基本的な考え方』をもとに主要な施策等の検討を進めてまいります。

【公表資料】

1. 新たな首都圏広域地方計画『基本的な考え方』（概要版）

「基本的な考え方」の本文については、首都圏広域地方計画のホームページよりご覧頂けます。

<https://www.ktr.mlit.go.jp/chiiki/index00000014.html>

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、千葉県政記者会、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ、川崎記者クラブ、相模原記者クラブ、さいたま市政記者クラブ、千葉市政記者会、横浜市政記者クラブ、横浜海事記者クラブ、関東運輸局記者会（ハイタク等専門紙）、物流専門紙

<問い合わせ先>

【首都圏広域地方計画協議会事務局】国土交通省関東地方整備局 首都圏広域地方計画推進室
電話：048-601-3151（代表） メールアドレス：ktr-kouiki-shutoken@ki.mlit.go.jp
総括副室長 太田 敏之（おおた としゆき） 内線：3491
国土交通省関東運輸局 交通政策部交通企画課 課長補佐 菅井 規（すがい ただし）
電話：045-211-7209
国土交通省関東運輸局 観光部観光企画課 課長補佐 高木 純子（たかぎ じゅんこ）
電話：045-211-1255

【首都圏広域地方計画「基本的な考え方」概要】

(対象区域:茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県)

<現状と課題>

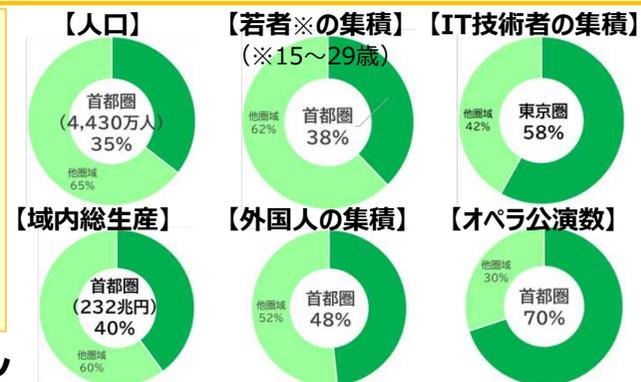
【3つの危機】

- 巨大自然災害
- 国際情勢の緊迫化に伴うエネルギー・食料確保
- 人口減少・高齢化、人手不足、人材の競争力低下

【首都圏の強み】

- 中枢機能、ゲートウェイ機能
- 人材(若者・子ども、外国人/DX・芸術)の集積
- 大河川、広大な平野、島嶼等の多様で豊かな自然環境が大都市に近接
- 充実した鉄道等の交通ネットワーク

【コロナ禍を経た変化】 ○東京圏でのテレワークの普及と暮らし方・働き方の変化の兆し



<将来像>

- ・テクノロジーを活用した、人間中心で誰一人取り残さない、「ゆたかな」地域
- ・「多様な空間」、「多様な人々の寛容・包摂的な共生」、「多様な選択肢」、自由な判断が尊重される地域
- ・若者・子どもや未来への投資、シニアの能力活用による世代間の公平性が確保される地域
- ・危機に対して「しなやか」な復元力を持つ持続可能な地域
- ・上質なリアルな空間が生活に「ゆたかさ」をもたらし、人間のリアルな交流が「新しい価値」を創出し続ける地域

<目標>

I. 危機を好機として、施策の多機能化と連携によって首都圏をリニューアル

危機：(1)巨大災害リスクへの対応 (2)エネルギー・食料確保のリスクへの対応 (3)人口減少・高齢化リスクへの対応

【首都圏のリニューアル】

- ①「新技術・新エネルギーに対応できるインフラ」への更新
- ②「人口が減少しても生産性が高く安心して暮らせる地域」
- ③「省資源・循環型・グリーン地域」への転換

II. 首都圏の強みである上質で多様な資源を磨く

首都圏の人々がそれぞれの地域や場面で我が事として捉え、愛着や誇りをもって取り組む

- <戦略的視点> 1)デジタルの活用とリアルとの融合 2)人間の仕事の尊重、次世代の育成 3)課題を解決するグリーン
4)縮退・撤退を前提とした新陳代謝 5)国土全体の課題に先進的に取り組む

将来像 (しなやか、ゆたかさ、新しい価値の創出) を実現 国際競争力等で我が国を牽引する首都圏